

★ ふさおとめ、ふさこがねの幼穂形成期は平年並み

★ 6月22日頃から、コシヒカリで幼穂形成期となる見込み！

### 1 君津地域の生育概況

平年より1日遅い6月8日に梅雨入りし、6月以降、気温は平年並み、日照時間は平年より少なく推移しましたが、「ふさおとめ」、「ふさこがね」の幼穂形成期は平年並みとなっています。4月20日植えの「コシヒカリ」は6月22日頃から、「粒すけ」は6月21日頃から幼穂形成期を迎える見込みです。

草丈は平年並みからやや短く、葉色は濃く推移しています。茎数は、目標生育量に達しているほ場もありますが、全体としてはやや少ない傾向にあります。

ほ場ごとに生育にばらつきがありますので、生育状況に応じて穂肥の時期と量を決めましょう。

### 2 生育調査ほの調査結果※（6月15日）

品種		田植日	坪当たり 植付株数	葉令 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	単葉 葉色
ふさおとめ (袖ヶ浦市)	R5年	4/20	54	10.7	56	31.9	520	44.5
	平年比	4/18	51	11.1	56	38.8	598	41.3
	前年比	+2	106%	-0.4	100%	82%	87%	107%
ふさこがね (木更津市)	R5年	4/18	65	10.4	44	13.3	259	43.2
	平年比	4/20	64	10.1	46	23.4	450	40.1
	前年比	-2	102%	+0.3	96%	57%	58%	108%
コシヒカリ (君津市)	R5年	4/28	50	10.4	53	36.5	555	43.9
	平年比	4/24	52	9.7	55	32.8	522	38.4
	前年比	+4	96%	+0.7	96%	111%	106%	114%
粒すけ (君津市)	R5年	5/4	53	9.7	39	20.6	328	42.6
	平年比	5/2	53	10.0	47	28.7	464	40.3
	前年比	+2	100%	-3	83%	72%	71%	106%

※平年値について、ふさおとめは令和3、4年の平均、ふさこがね、粒すけは令和2～4年の平均、コシヒカリは令和1～4年の平均です。

### 3 これからの管理のポイント

#### ① 「コシヒカリ」「粒すけ」の幼穂形成期（出穂25日前・幼穂長1mm）の予測

品種	植付時期	幼穂形成期予測	穂肥適期の目安
コシヒカリ	4月20日	6月22日頃	幼穂形成期7日後頃～15日後頃の間
	5月1日	6月28日頃	
粒すけ	4月20日	6月21日頃	幼穂形成期から7日後頃

※穂肥の施肥量は窒素と加里を10a当たり成分量で各3kgが目安になります。

※幼穂形成期の10日～15日後までが冷害危険期になります。

## ② 幼穂形成期の目標生育量

下の表を参考に、生育量が目標を超えている場合は、施用適期の範囲内で追肥時期を遅らせ、減肥しましょう。また、近年、収穫期前の降雨や強風により倒伏するほ場もみられますので、下の表を参考に、施肥量を調整しましょう。

品種	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )		
		砂質土	壤質土	粘質土
ふさおとめ	55 以下	570~620 (31~34 本)		520~570 (29~31 本)
ふさこがね	60~65 以下	450~500 (25~27 本)		
コシヒカリ	70 以下	430~560 (23~30 本)		
粒すけ	65 以下	590 (32 本)	550 (30 本)	

※茎数の ( ) 内は 60 株/坪植え時の 1 株当たり茎数の目安

## ③ 今後の水管理について（節水へのご理解とご協力をお願いします！）

幼穂を確認したら入水を開始し、出穂3週間前から出穂2週間後までは湛水管理を行いましょう。

また、冷害危険期となる幼穂形成期 10~15 日後（出穂期 15~10 日前）に、日平均気温 20℃以下の低温の持続が予想されるときは、幼穂を保温するため、「深水管理」を行いましょう。

※三島ダムの水位低下による湧水への対応として、節水へのご理解とご協力をお願いいたします。

## ④ 斑点米カメムシ類の防除

出穂期前後の畦畔の草刈りは、カメムシ類を水田の中に追い込んでしまいます。畦畔雑草は出穂の2週間前頃までに刈り取り、出穂後は、収穫まで雑草が出穂しないように草刈りしましょう。

## ⑤ 主要病害の防除

○いもち病：止葉などの上位葉に病斑がある場合は、穂いもちに移行し減収するおそれがあることから、穂ばらみ期に治療効果のある薬剤で防除しましょう。

○稲こうじ病：穂ばらみ期が低温の場合や降雨が多い時に発生が多くなります。前年に多発したほ場では出穂期 10 日前までに、薬剤防除をしましょう。

○紋枯病：茎数が多いと発生しやすくなります。また、紋枯病による葉鞘の枯れ上がりは倒伏を助長します。飼料用米品種でも発生がみられるので注意しましょう。

## ⑥ イネばか苗病の抜き取りのお願い

本田で発生したイネばか苗病の株を放置すると、胞子が飛び、周りのほ場にも伝染します。特に、採種ほ場の周辺で本病が発生すると、優良な種子の生産に支障をきたします。本病の発生が見られたら、採種ほ場の出穂前までに罹病株ごと抜き取り、埋却処理するなどの対応について、ご協力をお願いします。

-郵便で配信している方へお願い-

通信費削減のため、「あぜみち」の配信を、郵便から、電子メール又はFAXへの切替えを進めています。変更いただける方は、下記まで御連絡ください。

連絡先 宇賀神（うがじん）n.ugin@pref.chiba.lg.jp 0438-23-0299（電話）

※ 次号は「7月6日頃」発行予定